

週日の説教

金 大烈 神父 2010年12月4日(土)

《イエス様は、深く憐れまれた - 私以上に悲しみ、喜んでくださるイエス様 - 》

今日の福音(マタイ 9・35-10・1、5a、6 8)で、皆様はどの箇所が目が留まったのでしょうか。私と同じところだと信じながらお話しします。

私の目が留まったのは、「**群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた。**」というところです。弱り果て、打ちひしがれている人の姿を想像してみてください。そして、それを見たイエス様はどんな反応を見せましたか。『深く憐れまれた』と書かれていますね。

日本語に『情けない』という言葉があります。この言葉は、どういう意味でしょうか。簡単に言えば、「一緒に喜べないこと。」「一緒に悲しめないこと。」「一緒に笑えないこと。」「涙を流す時に一緒に涙を流せないこと。」です。私たちには、『情け』があります。そのように信じています。皆様ならば、絶対に『情け』があると思います。

あるテレビのコマーシャルに、このような言葉がありました。「待っているから早く来てね。」です。これは、電話の相手に言っている言葉です。この言葉は、悲しく聞えるでしょうか、それとも嬉しく聞えるでしょうか。嬉しく聞えますよね。私はこのコマーシャルの言葉を耳にした時に、このような気持ちで関わりを持てれば、私たちはどのくらい嬉しい生き方ができるのか、と思いました。

相手が、用事があって電話をかけ、「あなたを訪ねます」という話をしたのでしょうか。それがどんな用事であれ、「待っているから早く来てね。」という気持ちで対応できたら、私たちは本当に幸せ者でしょう。皆様もそのように思いますよね。

今日の福音で、イエス様は疲れ果てている人々を見て、なぜこのような生き方しかできないのか、という思いで、いろいろ教えたのだと思います。

最後にこのような言葉が書かれていますね。「**病人をいやし、死者を生き返らせ、重い皮膚病を患っている人を清くし、悪霊を追い払いなさい。**」です。これはイエス様が12人の弟子達に話した言葉です。

ここで私が一番気になるのは、『死者を生き返らせ』という言葉です。これは、どういう意味でしょうか。簡単に言えば「生きていても生きていないような人が、結構いる」ということでしょうか。私たちのまわりにも、生きてると言えないような生き方をしている人がたくさんいます。そして、私たちもその仲間に入っているのかもしれない。

福音の意味は、「**嬉しい便り。嬉しい音。**」ですね。私たちがその福音に触れて生きています。だから、生きていないような生き方をしている人々に、私たちが体験した、その『嬉しい便り』を紹介する義務があるのではないのでしょうか。『生き返らせる』というのは、私たちの大きい課題ではないかと

思います。

皆様、「イエス様が深く憐れまれた」という言葉を心に刻みましょう。そして、イエス様が私の悲しみを見て、時には私よりも悲しく感じているかもしれないこと、私の喜びを見て、私より喜んでいるかもしれないことを考えてみましょう。そういう信仰による絆が、イエス様と私達の間、一番必要ではないかと思います。

皆様、「情けがある」というのは素晴らしい言葉です。情けがある生き方をしましょう。

ありがとうございました。